

## 第15回 東アジア包摂都市ネットワーク(EA-ICN)・ワークショップ 開催案内

主催：ICN-Japan(包摂都市ネットワークジャパン)、ICN-Korea、ICN-Taiwan  
後援：大阪公立大学都市科学・防災研究センター

開催日程：2026年8月27日(木)～28日(金)

開催場所：大阪公立大学杉本キャンパス、いくのパーク、箕面市北芝地区、大阪市西成区あいりん地区他

### 趣旨

東アジアの都市は、人口減少や少子高齢化、格差の拡大、住宅問題、移民の増加、地域コミュニティの希薄化など、複雑かつ重層的な課題に直面している。こうした課題は特定の集団や地域に集中しやすく、社会的な分断や孤立を生み出している。

一方で、各都市では行政だけでなく、市民団体、地域住民、研究者、社会的企業など多様な主体が協働しながら、人びとの暮らしを支える新たな実践を生み出している。地域における居場所づくり、多文化共生の取り組み、居住支援、生活困窮者支援、コミュニティ形成などの実践は、都市の包摂性を支える重要な基盤となっている。

EA-ICN (East Asian Inclusive City Network) は、こうした東アジア各地の実践と研究を結びつけ、包摂的な都市のあり方を共に考えるための国際的な対話の場である。本ワークショップでは、日本、韓国、台湾、香港をはじめとする東アジアの研究者・実践者・市民団体が集い、それぞれの地域が直面する課題と取り組みを共有する。

私たちは、都市における「ケア」を単なる福祉サービスとしてではなく、人と人、人と地域をつなぐ社会的基盤として捉える。そして、多様な人びとが尊厳をもって暮らし続けることのできる「ケアリングシティ(Caring City)」の実現に向けて、地域に根ざした実践やコモンズの形成、国境を越えた連携の可能性を探究する。

本ワークショップが、東アジア各地の経験を共有し、新たな協働と実践を生み出す契機となることを期待している。

### 参加者

ICN-Japan(包摂都市ネットワークジャパン)会員、ICN-Korea、ICN-Taiwan、一般市民、学生、自治体職員、研究者等

### 参加費

6,000円(学生は3,000円)

※参加費に含まれる費用：昼食費(8/27, 8/28)、視察見学費

※交流会(8/28)に参加する場合、別途4,000円

### 参加申込

下記のリンクまたはQRコードからお申し込みください。最終締切：7/31(金)17:00(日本時間)

<https://forms.gle/w3dUnMmoamQFBtSV8>



### 言語

本ワークショップは逐次通訳によって実施する。

### 登壇者の報告要旨(翻訳済)提出締め切り

2026年7月24日までに各国で日中韓英語に翻訳を済ませた原稿を提出する(AI翻訳可)。A4で2枚以内厳守。

### 問合せ先・要旨提出先

包摂都市ネットワークジャパン(ICN-Japan)事務局：icnjapan2018@gmail.com

# プログラム

## 第 15 回包摂都市ネットワーク・ワークショップ（8/27-8/28）

本ワークショップでは、現地視察と並行し、以下の 4 つの Session テーマに関連した各都市の関連施策及び民間実践の報告と自由討論を組み込んだ形で実施する。

### ◆8/27(木) 現地視察(逐次通訳)

8:30～8:50 集合・受付

大阪メトロ「箕面萱野」駅北改札口

9:00～12:00 現地視察①北芝地区（大阪府箕面市）

12:00～12:50 昼食

電車移動（約 1 時間）

14:00～16:30 現地視察②いくのパーク（大阪市生野区）

電車移動（約 30 分）

17:00～18:30 現地視察③あいりん地区（大阪市西成区）

### 現地視察①

北芝地区における様々な困難を抱えた人たちを包摂する幅広いまちづくり実践について学ぶ。

### 現地視察②

コリアタウン内の廃校となった学校校舎を活かした多文化共生の地域交流拠点形成の実践について学ぶ。

### 現地視察③

あいりん地区におけるホームレスや生活困窮者を支える居住支援や、多様な主体との協働による都市再生の手法について学ぶ。

### ◆8/28(金) 事例報告(逐次通訳)

会場：大阪公立大学杉本キャンパス高原記念館学友ホール

9:00～9:15 開会のあいさつ

9:15～10:45 Session 1: 住まいとケアサービスの連携

10:45～11:00 休憩

11:00～12:30 Session 2: ケアする都市に向けた実践の共有

12:30～13:30 昼食

13:30～15:00 Session 3: レジリエンスと共生：均質化する都市における脆弱な人々のコミュニティ自治と持続可能な暮らしの再生

15:00～15:15 休憩

15:15～17:15 Session 4: グローバルな政経情勢と東アジア都市の包摂性の緊張関係：公的財政の戦略的調整が周辺化された人々の福祉に与える衝撃と排除

17:15～17:30 閉会のあいさつ

18:00～20:00 交流会（会場：野のはなハウス）

### Session 1

超高齢社会の到来、社会の二極化の深化等により、居住支援とケアサービス支援の連携の必要性が高まっている。とりわけ韓国では、2024 年に高齢者人口が 20%を超えて超高齢社会となり、2026 年には「医療・療養等地域ケアの統合支援に関する法律」が本格的に施行されるなど、居住とケアの連携に対する議論が活発に行われるようになった。しかし、未だに両者の政策的繋がりとは十分とは言えない状況にある。これは、単に韓国だけに限った課題ではなく、超高齢社会にあるアジア諸国共通の課題といっても過言ではない。そのため、本セッションでは、アジア諸国の居住とケアの連携事例や実践を共有し、各国への示唆点を得るための機会としたい。

### Session 2

人口減少、高齢化、地域経済の地盤沈下や環境の劣化が進む現代都市で、空間・環境的な格差や分断の広がりが、地域不利を先鋭化させる要因となっている。こうした分断を断ち切るため、都市内の課題先端地域(寄せ場やエスニックコミュニティなど)にコモンズを創り出す努力が求められる。人と人との関係性の回復による社会サービスの創生、そして自然との近接性を取り戻すための共創が必要である。デジタル技術を用いてハイブリッド化させ、出入り自由な軽いコミュニティを創生しケアする都市の形成につなげることが期待される。本セッションは、ケアする都市に向けた各都市の政策や実践の共有の場としたい。

### Session 3

グローバル化と過度な資本化という二重の圧力のもと、東アジアの都市は「均質化する都市」という深刻な空間変容に共通して直面している。急速な都市更新とジェントリフィケーションのなかで、都市環境はますます商品化され、脆弱な人々が「場所」に抱いてきた情緒的なつながりは突然断ち切れ、日常生活のなかで形成されてきた小さな相互扶助のネットワークも解体されつつある。さらに、日本、韓国、香港における現代の政治・経済状況は、ますますポピュリズム化・保守化している。こうした制度的硬直性と緊縮傾向は、草の根の人々、高齢者、ホームレス状態にある人々、新たな移民を、構造的剥奪の周縁へとさらに追いやっている。これは、空間的・階級的な排除の波に抗おうとする実践者たちにとって、共通の課題となっている。しかし、脆弱な立場に置かれた人々は、決して福祉の受動的な受け手にとどまる存在ではない。本セッションは、人間の主体性への根本的な尊重を中心に据え、従来の

トップダウン型の社会福祉パラダイムを転換することを目指す。私たちは、草の根のコミュニティが日常生活の裂け目のなかで、住民の「内なる力」を育み、「コミュニティ・ファシリテーター」をエンパワーすることを通じて、文化的自信と地域に根ざした知をいかに取り戻しているのかに焦点を当てる。これにより、冷たい物理的空間を、生活の物語と関係性の絆に満ちた、生き生きとした「場所」へと再び変えていくことが可能となる。本フォーラムは、日本、韓国、台北、香港における実践と知見を共有する、地域横断的な対話の場となることを目指す。コミュニティ・キッチン、相互扶助経済、都市農業といった試みを通じて、コミュニティがいかに共生のネットワークを築き、都市の均質化の潮流のなかでコミュニティ自治を取り戻し、環境的・社会的に持続可能な暮らしの空間を切り拓いていけるのかを、ともに検討したい。

#### Session 4

近年のグローバルな政治経済情勢と財政的制約を背景に、本セッションでは、東アジア都市における「公的福祉予算の増大」と「草の根の脆弱性の深刻化」が並存する体制的パラドックスを検証する。台北、東京、ソウル、香港では、マクロ財政資源が法定保険や義務的支出、制度的緊縮によってロックインされており、既存の福祉アイデンティティ（Welfare status）の境界線の下で、新たな予算空間が圧縮されている。その結果、福祉拡大という「幻影」の裏で、前線の NGO や非主流派のグループ（移民、難民、居住が不安定な人々など）は実質的な相対的剥奪や資源排除に直面している。本セッションでは、市民社会が公的財政の硬直性、慣性、あるいは戦略的調整という多重の制約をどのように切り抜け、都市の周辺層のための包括的な空間を維持しているかを探る。

関連企画：第6回インクルーシブシティ研究会年次大会【言語：英語】

会場：大阪公立大学中百舌鳥キャンパス

◆8/29(土)9:00～12:00 研究発表(英語のみ)